

レビ人の音楽奉仕（歴代誌から）

☰ 内容	
📅 年月日	@2022年7月29日
☰ Tags	
☰ 聖書	

（聖書は聖書協会共同訳）

- 1 **ダビデの時代**（エッサイの息子。在位、前1004-965）
 1. 神の箱の移送と失敗
 2. 神の箱の移送と安置
 3. レビ人の任務
 4. 詠唱者の奉仕と預言
 - 2 **ソロモンの時代**（ダビデの息子。在位、前965-926頃）
 1. ソロモンの神殿奉獻・契約の箱の安置
 2. シェバの女王の来訪
 - 3 **ヒゼキヤの時代**（アハズの息子。在位、前728-697）
 - 4 **ヨシヤの時代**（アモンの息子。在位、前639-609）
- レビ人の音楽奉仕 まとめ

1 ダビデの時代（エッサイの息子。在位、前1004-965）

1. 神の箱の移送と失敗

神の箱をキルヤト・エアリムのアビナダブの家から運び出し、エルサレムの宮殿に移そうとする。神の箱を新しい車に載せ、出発する際に音楽が奏される。



歴代誌上 13:6 ダビデとイスラエルのすべての人々はバアラト、つまりユダのキルヤト・エアリムに上って行き、「ケルビムの上に座す主」という名で呼ばれる神の箱をそこから運び上げた。

7 彼らはアビナダブの家から神の箱を新しい車に載せた。ウザとアフヨがその車を御していた。

8 「**ダビデとイスラエルの人々は皆、神の前で力の限り、歌を歌い、琴、豎琴、タンバリン、シンバル、ラッパを奏でた。**」

しかし事故により移送は失敗に終わる。

その事情と理由は→

<https://www.notion.so/96078340686148d0872bca64aafa6c>

2. 神の箱の移送と安置

この反省に立って、ダビデは再度神の箱を迎え、安置する。



歴代誌上 15:14 祭司とレビ人は、イスラエルの神、主の箱を運び上げるために身を清めた。

15 レビ人の一族は、主の言葉に従ってモーセが命じたとおりに、神の箱を棒を使って肩に担いだ。

16 「ダビデはレビ人の長たちに命じて、その兄弟たちを**詠唱者**に任じた。**豎琴、琴、シンバル**といった**楽器**に合わせて歌い、喜びの声を上げるためであった。

19 詠唱者であるヘマン、アサフ、エタンは**青銅のシンバル**を鳴らし、
20 ゼカルヤ、アジエル、シェミラモト、エヒエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤは**豎琴**をアラモト調で奏で、

21 マティトヤ、エリフェレフ、ミクネヤ、オベド・エドム、エイエル、アザズヤは**琴**をシェミニト調で**奏で、歌を指揮した**。



3弦のライアーを模したコイン



歴代誌上 15:25 ダビデは、イスラエルの長老や千人隊の長と共に行き、喜びのうちに、主の契約の箱をオベド・エドムの家から運び上げた。

26 主の契約の箱を担ぐレビ人を、神が助けてくださったので、彼らは雄牛七頭と雄羊七匹をいけにえとして献げた。

27 ダビデは上質の亜麻布の上着をまとっていた。すべてのレビ人、すなわち、箱を担ぐ者も詠唱者たちも、運搬の長ケナンヤも、詠唱者たちもそうであった。ダビデは亜麻布のエフォドもまとっていた。

28 イスラエルの人々は皆、喜びの叫びと角笛の音のうちにラッパとシンバルを鳴らし、豎琴と琴を奏でて、主の契約の箱を運び上げた。

16:1 人々は神の箱を運び入れ、ダビデの張った天幕の中に置き、神の前に焼き尽くすいけにえと会食のいけにえを献げた。

4 ダビデは主の箱の前で、レビ人の中から奉仕者を立てた。イスラエルの神、主を記念し、**感謝と賛美を献げるため**である。

5 頭（かしら）はアサフ、第二にゼカルヤ、それにエイエル、シェミラモト、エヒエル、マティトヤ、エリアブ、ベナヤ、オベド・エドム、エイエル。彼らは**豎琴と琴を奏で、**アサフは**シンバルを鳴らし、**

6 祭司であるベナヤとヤハジエルは神の契約の箱の前で絶えず**ラッパ**を吹いた。」

7 この日、ダビデは初めて、アサフとその兄弟たちによって主への感謝を献げるよう定めた。

【ダビデによる感謝の詩編】 16:8～36

8 主に感謝し、その名を呼べ。／もろもろの民に主の業を知らせよ。

23 全地よ、主に向かって歌え。……

37 ダビデはアサフ [詠唱者 15:19、16:5] とその兄弟たちをその場所に、すなわち主の契約の箱の前に残し、日課のとおり絶えずその箱の前で奉仕させた。

41 「彼らと共に、ヘマン、エドトン、その他の選ばれた者たちが、「その慈しみはとこしえに」と主に感謝するために指名された。

42 また、ヘマンとエドトンは、**鳴り響かせるラッパやシンバル、神の歌に用いる楽器**を携えていた。エドトンの息子たちは門に配された。

43 こうして民は皆、自分の家に帰って行った。ダビデも家族を祝福するために戻って行った。

※神の箱の運び入れの記事はここまで。

※**アサフ** ダビデに任命された詠唱者の長の一人。楽器（シンバル）も奏でる。（歴代誌上15:16-17、19、16:5、7、37）。宮殿に設置された天幕に運び込まれた主の契約の箱の前で「日課のとおり絶えず」奉仕した（歴代誌上37）。詩編50、73～83は「アサフの詩」とされる。

3. レビ人の任務

- ・ 神殿の仕事（の責任者）
- ・ 役人と裁判官
- ・ 門衛
- ・ 音楽（詠唱と奏楽）



歴代誌上 23:1 ダビデが年を取って最期の時が近づくと、息子ソロモンをイスラエルの王とし、
2 イスラエルの全高官、祭司、レビ人を集めた。
3 三十歳以上のレビ人を数えると、男子は三万八千人であった。
4 そのうち、二万四千人は主の神殿の仕事の責任者に、六千人は役人と裁判官に、
5 四千人は門衛に、四千人はダビデが賛美のために作った楽器を奏でて主を賛美する者になった。

レビ人の役目（詳細）歴代誌上 23:38-

○ダビデはレビ人を組織化した。音楽担当は4000人（レビ人の1/10強）。

○ここには男子しか数えられていないが、エズラ記2:65、ネヘミヤ記7:67には「男女の詠唱者」という記述がある。

4. 詠唱者の奉仕と預言



歴代誌上 25:1 ダビデと将軍たちはアサフ、ヘマン、エドトンの子らを奉仕のために選び分けた。彼らは**琴、豎琴、シンバルを奏でて預言する者**となった。この奉仕を務めとする人々の数は次のとおりである。

2 アサフの一族についてはザクル、ヨセフ、ネタニヤ、アサルエラ。アサフの一族はアサフの指示に従い、アサフは王の指示に従って**預言した**。

3 エドトンについては、その子らゲダルヤ、ツェリ、エシャヤ、シムイ、ハシャブヤ、マティトヤの六人。彼らは父エドトンの琴に従い、エドトンは主への感謝と賛美によって**預言した**。

5王の**予見者**ヘマン.....

○アサフらは音楽をとおして預言した。つまり神の言葉を伝えることを重要な任務としたのである。音楽の働きは、礼拝において単なる補助的なものではなく、神への感謝・賛美をあらわすとともに、神の言葉を宣言するという決定的に重要な意味を持った。

[https://www.notion.so/13-](https://www.notion.so/13-281685d4ede430d9dc85692a6cf0582#4de7f6bb718642a7b4dd748ada3805e1)

[281685d4ede430d9dc85692a6cf0582#4de7f6bb718642a7b4dd748ada3805e1](https://www.notion.so/13-281685d4ede430d9dc85692a6cf0582#4de7f6bb718642a7b4dd748ada3805e1)

○ダビデの宮廷には預言者ナタンがいたが、レビ人との関係は不明。



25:6 彼らは皆、父の指示に従って主の神殿でシンバル、豎琴、琴を奏で、歌を歌って神殿の奉仕を果たし、王やアサフ、エドトン、ヘマンの指示に従った。

2 ソロモンの時代（ダビデの息子。在位、前965-926頃）

1. ソロモンの神殿奉献・契約の箱の安置



歴代誌下 5:12 **レビ人の詠唱者**、すなわち、アサフ、ヘマン、エドトン、それに彼らの息子たち、兄弟たちは皆、上質の亜麻布を着て、**シンバル、豎琴、琴**を持って祭壇の東側に立ち、彼らと共に百二十人の**祭司たち**が**ラッパ**を吹き鳴らした。

13 **ラッパを吹き鳴らす者と詠唱者**は声を合わせて主を賛美し、ほめたたえた。そして、**ラッパ、シンバルなどの楽器と共に声を上げ**、「主は恵み深く、その慈しみはとこしえに」と主を賛美すると、雲が神殿、すなわち主の神殿に満ちた。

14 その雲のため、祭司たちは奉仕を続けることができなかった。主の栄光が神殿に満ちたからである。

これに続く6章には、ソロモンの神殿奉献の長い祈りが記される。



歴代誌下 7:5こうして、王とすべての民は、共に神殿を奉献した。

6 祭司たちはその務めに就き、**レビ人たちも主の楽器を持って奉仕した**。その楽器は**ダビデ王が作ったもので**、ダビデが彼らの演奏によって賛美を献げ、「その慈しみはとこしえに」と主をたたえるためのものであった。**祭司たちはその前でラッパを吹いた**。イスラエルのすべての人々が起立していた。

○このように神殿奉献礼拝において音楽は非常に重要な役割を果たした。

2. シェバの女王の来訪



歴代誌下 9:10 また、オフィルから金を積んで来たヒラムの家臣たちとソロモンの家臣たちは、白檀（びやくだん）や宝石を運んで来た。

11 王はこの白檀の木材で、主の神殿や王宮の階段、**詠唱者たちのための琴や豎琴**を作った。かつてユダの地で、そのようなものが見られることはなかった。

3 ヒゼキヤの時代（アハズの息子。在位、前728-697）

ヒゼキヤ王による神殿の清め



歴代誌下 29:5 [ヒゼキヤは] 彼らに言った。「レビ人よ、聞きなさい。あなたがたは今、身を清めて、あなたがたの先祖の神、主の神殿を清め、聖所から汚れを除き去りなさい。」

10 「今こそ、私はイスラエルの神、主と契約を結ぶつもりである。そうすれば、主の燃える怒りが私たちから離れるであろう。

11 わが子らよ、さあ、安穩としていてはならない。主があなたがたを選ばれたのは、あなたがたが御前に出て主に奉仕し、主に奉仕する者や香をたく者となるためである。」

12 そこでレビ人は立ち上がった。

25 「彼 [ヒゼキヤ] はダビデ、ならびに王の予見者ガド、預言者ナタンの命令に従って、シンバル、豎琴、琴を持つレビ人を主の神殿に置いた。この命令は、主が預言者たちを通してお授けになったものである。

26 レビ人がダビデの楽器を、祭司がラッパを持って立つと、

27 ヒゼキヤは祭壇に焼き尽くすいけにえを献げるように命じた。焼き尽くすいけにえを献げ始めると、イスラエルの王ダビデの楽器に合わせ、主の歌とラッパの演奏が始まった。

28 会衆は皆ひれ伏し、歌が歌われ、ラッパが吹き鳴らされた。すべては、焼き尽くすいけにえを献げ終わるまで続いた。」

34 「ただ祭司が少なく、焼き尽くすいけにえすべての皮を剥ぐことができなかった。そこで、その作業が終わるまで、また他の祭司たちが身を清めるまで、彼らの兄弟であるレビ人が彼らを助けた。レビ人は、祭司たちよりも誠実に、身を清めていたからである。35 また、多くの焼き尽くすいけにえ、それに会食のいけにえの脂肪や、焼き尽くすいけにえのための注ぎの供え物もあった。こうして主の神殿の奉仕が整えられた。36 ヒゼキヤとすべての民は、神が民のために整えてくださったことを喜んだ。このことが速やかに行われたからである。」

○ヒゼキヤによる神殿の清め（宗教改革）において、レビ人は重要な役割を果たした。

○ヒゼキヤの命により祭司、レビ人が神殿の清めを行い、神殿の奉仕を整えたのだが、ヒゼキヤ王と民は「神が民のために整えてくださった」ことを喜ぶ。信仰の姿勢をここに読み取ることができる。

4 ヨシヤの時代（アモンの息子。在位、前639-609）



歴代誌下 35:14 ……レビ人は自分たちと、アロンの一族である祭司たちのために準備を整えた。

15 アサフの一族である詠唱者たちは、ダビデ、アサフ、ヘマン、王の予見者エドトンの命令に従って自分の持ち場におり、門衛もそれぞれの門にいた。同胞であるレビ人が彼らのために準備を整えたので、彼らは自分の奉仕を離れる必要がなかった。

16 ヨシヤ王の命令に従って過越祭を祝い、主の祭壇に焼き尽くすいけにえを献げるために、主への奉仕の準備はすべてその日に整った。

17 こうしてその時、そこにいたイスラエルの人々は過越祭を祝った。また除酵祭を七日間、祝った。

18 預言者サムエルの時代以来、イスラエルでこのように過越祭が祝われたことはなく、イスラエルの歴代の王も、ヨシヤ、祭司、レビ人、そこにいたユダとイスラエルのすべての人々およびエルサレムの住民が行ったような過越祭を祝ったことはなかった。」

○ヨシヤ王による宗教改革の一環である大きな過越祭において、レビ人は詠唱をはじめとして重要な役割を果たした。しかしその後、ヨシヤはエジプトとの戦闘で死去した。

○レビ人との関係で「予見者」「預言者」が言及されるのは興味深い。ダビデの時代4.を参照。

[https://www.notion.so/13-](https://www.notion.so/13-e281685d4ede430d9dc85692a6cf0582#b28f3209d17f4fce94db9fd330d1ba8d)

[e281685d4ede430d9dc85692a6cf0582#b28f3209d17f4fce94db9fd330d1ba8d](https://www.notion.so/13-e281685d4ede430d9dc85692a6cf0582#b28f3209d17f4fce94db9fd330d1ba8d)

予見、預言は神の言葉と霊によって働きをなすものであり、レビ人の音楽奉仕もまた神の言葉と霊によるものであったと考えられる。

レビ人の音楽奉仕 まとめ

祭司とレビ人は、いずれも族長ヤコブの息子レビの系統に属する。しかし一般に、祭司が礼拝において主要な役割を担うのに対し、レビ人は補助的役割を果たすものとされた。（民数記18:1-7、歴代誌上23:28）

しかし、レビ人は礼拝における音楽の務めを委ねられ、さらにその指導者の一部は音楽をとおして預言する務めを与えられた。歴代誌は礼拝音楽について特別な関心

をもって記述している。音楽は、感謝と賛美の礼拝において極めて重要なものであり、王国の統一を促進し神の民の信仰を深化・鼓舞するものであったと考えられる。